



生駒市立鹿ノ台小学校

鹿小だより

令和 5年 5月 17日

第 4 号

「おはよう」「ありがとう」いっぱい地域・学校に

5月1日は全校朝会でした。

入学式では、大切にしてほしい3つの言葉「おはよう」「ありがとう」「たいじょうぶ」の話をしたのですが、2年生以上の子どもたちには、直接、話をする機会がなかったため、5月の全校朝会で3つの言葉を紹介し、「ありがとう」について、詳しく話をしました。ありがとうと言ってほしい(感じてほしい)場面として、①直接、人から親切にしてもらい、目に見える場面と②目には見えないけれど感謝の気持ちを感じた場面(出来事)の2つに分けて、具体例を挙げて紹介し、「ありがとう」を言えるようになってほしいし、言われるようなことをどんどんしてほしいこと、「ありがとうのたね」をたくさん見つけようと伝えました。



子どもたちの様子や活動の様子を知るために、毎日校内を巡回しています。ある日、私が低学年の教室にお邪魔した際、ある子に何か手助けをする場面がありました。すると、「校長先生、ありがとう。」とすぐに返してくれました。「ありがとうと言われるとうれしいね。」と私が返すと、それを聞いていた別の子が、「校長先生、(全校朝会で)前にお話ししてたね。」と声をかけてきました。少しでも子どもたちの心に響いて子どもたちの健やかな成長に繋がればと願っていますし、子どもたちの素直な反応にいつも元気と喜びをもらっています。

また、この日の全校朝会では、生活指導の教員から、「あいさつ」についての話もありました。登校の様子を見ていると、自分から、目を合わせて、あいさつをする児童が増えてきたように感じます。毎朝、昇降口に立って、登校する児童と挨拶を交わしているその教員が、「毎朝、先生や友だちとあいさつができている人は？」と問いかけると、ほとんどの子が手を挙げていました。担当の教員は、これからは、「自分からすること」「地域の人ともあいさつをすること」を次の目標にして頑張りましょうと呼びかけました。

「ありがとう」と「おはよう」の言葉が響き合う鹿ノ台校区にしたいものです。保護者の皆様、地域の方々、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

全校朝会ではこんなこともありました…

全校朝会では、6年生が体育館に一番に入場し、一列に並んで姿勢よく静かに座って待っていてくれました。集会の時の待ち方を行動で示してくれた6年生。さすが最高学年です。

環境委員会から、正しいほうきの使い方について、寸劇での連絡がありました。昨年度は、乱暴な使い方があったのでしょうか、壊れてしまったほうきの数が大変多かったようです。

校区のあたたかい 眼差しの中で

登下校を見守ってくださる地域の方がたくさんおられます。

緑色のウインドブレーカーを着て、黄色い旗を持ち、正門や横断歩道で児童の交通等の安全のため、雨の日も晴れの日も毎日立ってくださっています。育友会では、「見守りパトロール」の活動を続けてくださっています。

子どもは、たくさんの大人に見守られ、声をかけてもらい地域の中で育っていくものだと思います。

ご協力いただいている皆様、いつもありがとうございます。

ありがとうの種

校長室前に

を掲示しています

ありがとうだね



こうちようせんせい こうない
校長先生が校内で見つけた「ありがとう」の種です。

みなさんも、見つけたら教えてください。

ありがとうの種が芽を出してみんなの心に
きれいな花がたくさん咲くと嬉しいなあ。



ゴールデンウィークあけの水曜日。登校中にこけてりょう足をけがした子がいました。いっしょに手をつないでくつばこまでつきそってくれた子たち、ありがとう。

ろうかにある手洗い場のみどり色の液体せっけん。休み時間にいつの間にかつぎたしてきている委員会の人がいます。見かけたら、おれいをいしましょうね。

草かりをしていると、「ありがとうございませす。」と元気な声と笑顔で声をかけてくれました。ありがとうの言葉に、元気をもらいました。ありがとう。

1年生教室のそうじのとき。ゆかにおちている上着や給食着をそっと拾って椅子にかけてくれている6年生の男の子がいました。さりげないやさしさがうれしいね。

1年生と手をつないで、いっしょに登校してくれている高学年の子がたくさんいます。やさしくよりそってくれてありがとう。

くつばこで、けがをした子にたまたま出会った5年生の子が、「わたしがほけんしつへつれていってあげる。」と言ってくれました。そのやさしさに、ありがとう。



授業

教室

風景

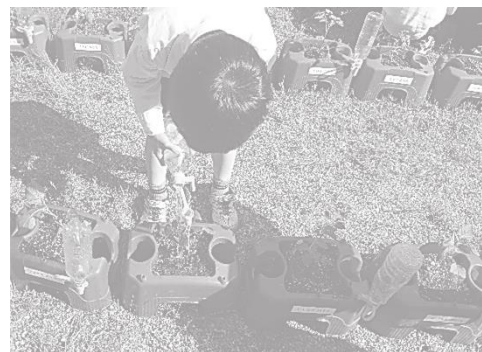


5年生は、魚の誕生と成長の学習をしています。5年生の教室前の廊下には、LEDのライトで明るく照らされた大きな水槽があります。水槽の中には、数十匹のメダカが、今年で2年目になりました。昨年もたくさんの卵を産んでたくさんのメダカが生まれ育ちました。水槽の横には、解剖顕微鏡が置いてあって、メダカの卵がいつでも観察できるようにセットしてあります。5年生の子どもたちは、時折、解剖顕微鏡のレンズをのぞき込んで観察をしています。この日は、メダカのオスとメスの違いについて学習をしていました。それぞれの特徴を理解した上で、オスとメスの絵を描いていました。写真を撮らせてもらうと「やったあ。校長先生に、写真撮ってもらった。何かに載せてもらえる！」はい、ここに使わせてもらいました。

2年生は、登校するとすぐにペットボトルで水やりをしています。「何を育てるの？」と訊ねると、「ぼく、ピーマン！」「わたしはミニトマト！」と誇らしげな声が返ってきます。

「ピーマンの肉詰めはおいしいよね。」とまた話しかけると、「うん、おいしい。ぼくは、竹輪と一緒に炒めて食べるねん。」「ミニトマトはドレッシングかけて食べるの。」と早くも収穫後の食べ方を楽しみにしているのが伝わってきます。3列に並んだ青い植木鉢を順番に指さしながら、「トマト、トマト、ピーマン、トマト…」と数えて、ここの列はトマトが多いと数人で数える子たち。葉の形を見てピーマンかミニトマトなのか自信をもって見分けられています。

2年生は、1学期に野菜を育てていきます。連休明けの火曜日に、ピーマンとミニトマトの種類から1つを選び、苗を植えていました。これから、毎朝、水やりを続けていきます。



授業教室風景は
鹿ノ台小学校の
Twitterでも
紹介しています。